

## 平成19年度 継続評価書

研究機関 : NTTコミュニケーションズ(株)、三菱電機(株)  
研究開発課題 : 情報家電の高度利活用技術の研究開発  
研究開発期間 : 平成18 ~ 20年度  
代表研究責任者 : 高杉 英利

総合評価 : 適 (適 / 条件付き適 / 不適の3段階評価)

(総論)

最終年度も、引き続き研究開発を推進することが適当。

(コメント)

- 技術的に目標値通り、あるいは、それ以上の効果が出ており、普及促進活動にも努めている。20年度もさらなる進展が期待でき「適」とした。
- 、最終年度であることを強く意識した実施計画を建てていただきたい。海外への展開や、インプレメンタあるいはファーストユーザとなる企業の獲得等にも尽力してほしい。
- ホームネットワークの分野は、複数のプロバイダ、メーカー等が参加して、製品やマーケットを作り出すように取り組んでいくことが最低限の条件である。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

(総論)

計画通りの成果が出ており、アウトプットのイメージも明確になり評価できる。

外部発表件数についても目標を達成している。

(コメント)

- デバイスソフトウェア配信技術に目標を上まわる成果が出ている。
- サービスイメージがかなり明確になってきた。
- 外部発表件数が特許を除くと目標を上まわり標準化や普及促進活動に力をいれている。
- 年次目標も明確に設定されており、実証実験、評価実験等を通して出口イメージが明瞭になった点が評価できる。学会会議や展示会等でのプロモーション活動も適切であり、特許、論文等の数値目標もクリアしている。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

(総論)

予算計画書に基づいた適切な研究資金の使用が認められる。

(コメント)

- マルチデバイス管理・制御技術の優先度を入れ替える等、工夫が見られる。
- 適切であり、問題ないと思われる。

### (3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

(総論)

**全体的に効率的な計画が立てられており、実行性も高い。**

- マルチデバイス管理制御が修正され、所要額、スケジュールともに効率的に組み立てられている。
- 一部当初計画より先行して計画されており、実行可能性も高いと思われる。
- 全般的に最終年度として効率的な実施計画が立てられている。当初計画との変更点も妥当なものである。。
- コメントとして、技術とコンテンツの摺り合わせが必要だという印象を持った。例えば、ホームネットワークと認証技術・ソフトウェア配信技術の組み合わせで説得力のあるシナリオや利用シーンを明示し、評価実験を行ってほしい。
- 最終年度でもあるので、標準化活動等、海外での取り組みも積極的に展開してほしい。

### (4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

(総論)

**概ね適切な予算計画が組まれている。**

(コメント)

- 概ね妥当な予算計画が組まれている。実証実験に関わる経費、展示活動等の経費も適切に盛り込まれており、評価できる。

## (5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価B

(総論)

適切な実施体制が組まれている。

(コメント)

- 適切な実施体制が組まれており、問題ない。